

【資料1】

自治体保健師の標準的なキャリアラダー(専門的能力に係るキャリアラダー)

別紙

		キャリアレベル					
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	
キャリアレベルの定義	所属組織における役割	・組織の新任者であり行政組織人及び保健師専門職としての自覚を持つ。	・計画された担当業務を自立して実施する。 ・プリセプターとして後輩の指導を担う。	・保健活動に係る担当業務全般について自立して行う。 ・役割や立場の違いを理解し、つなぎ役としての組織的な役割を担う。 ・自組織を越えたプロジェクトに参画する。	・所属係内でチームのリーダーシップをとって保健活動を推進する。 ・キャリアレベルA-5の保健師を補佐する。 ・関係機関との信頼関係を築き協働する。 ・自組織を越えたプロジェクトで主体的に発言する。	・所属課の保健事業全般に関して指導的役割を担う。 ・自組織を越えた関係者との連携・調整を行う。	
	責任を持つ業務の範囲	・担当業務を的確に把握・理解し、個別事例に対して責任を持つ。	・系の保健事業に係る業務全般を理解し、地域支援活動に係る担当業務に責任を持つ。	・系の保健事業と施策との関係性を理解し、主担当として担当業務に責任を持つ。	・課の保健事業に係る業務全般を理解し、その効果的な実施に対して責任を持つ。	・組織の健康施策に係る事業全般を理解し、その効果的な実施に対して責任を持つ。	
	専門技術の到達レベル	・基本的な事例への対応を主体的に行う。 ・地域活動を通して地域特性や地域資源を把握し、地域の人々の健康課題を明らかにする。	・複雑な事例への対応を必要に応じて指導を受けて実施する。 ・担当地域の健康課題の優先度を判断し、地域の人々の主体性を尊重した解決策を立案する。	・複雑な事例に対して自立して対応する。 ・健康課題を明確にし、チーム内で共有し、地域の人々と協働して事業計画を立案する。	・複雑な事例に対して、担当保健師等にスーパーバイズすることができる。 ・地域の潜在的な健康課題を明確にし、施策に応じた事業化を行う。	・組織横断的な連携を図りながら、複雑かつ緊急性の高い地域の健康課題に対して迅速に対応する。 ・健康課題解決のための施策を提案する。	
保健師の活動領域	1 対人支援活動	1-1. 個人及び家族への支援	・個人及び家族の健康と生活について分析し健康課題解決のための支援計画を立案できる。 ・個人及び家族の多様性を尊重しながら実践できる。 ・支援に必要な資源を把握できる。	・複雑な事例の支援を必要に応じて、指導を受けて実施できる。 ・対象の主体性を踏まえ、支援に必要な資源を指導を受けて導入及び調整できる。	・複雑な事例のアセスメントを行い、支援を實踐できる。 ・支援に必要な資源を適切に導入及び調整できる。	・複雑かつ緊急性の高い健康課題を迅速に明確化し、必要な資源を調整し、効果的な支援を實踐できる。	
		1-2. 集団への支援	・集団の特性を把握し、グループダイナミクスを活用し、集団及び地域の健康度を高める能力	・集団のグループダイナミクスを活用して、特性に応じた支援計画を企画し、自立して支援できる。	・集団への支援を通して、地域の健康課題を明確化することができる。	・集団への支援を通して立案した事業により、住民による地域の健康課題の解決を支援することができる。	
		2-1. 地域診断・地区活動	・地域の健康課題や地域資源を明確化し、地域組織や関係機関と協働して課題解決する能力	・担当地区の情報を分析し、健康課題の明確化と優先性の判断ができる。	・地域診断や地区活動で明らかになった課題を事業計画立案に活用できる。	・地域診断や地区活動で明らかになった課題を施策立案に活用できる。	
	2 地域支援活動	2-2. 地域組織活動	・地域の特性を理解し住民と協働して組織化・ネットワーク化を促す能力 ・地域組織を育成し、ネットワーク化し協働する能力	・多様な住民ニーズを把握しながら、地域組織と共に活動できる。	・住民と共に活動しながら、住民ニーズに応じた組織化が提案できる。	・住民ニーズに応じた組織化を自立してできる。関係機関と協働し、必要に応じて新たな資源やネットワークの立ち上げを検討することができる。	・多様な住民組織のネットワークを立ち上げ、地域組織の育成を行うことができる。
		2-3. ケアシステムの構築	・健康なまちづくりを推進するため保健、医療、福祉、介護等の各種サービスの総合的な調整を行う能力 ・住民、学校、企業ほか、地域の関係機関と協働し連携を図り、地域特性に応じたケアシステムを構築する能力	・担当地区の各種サービスとその関係性を理解し、指導を受けながら担当事例に必要なサービスを活用できる。	・地域の健康課題や地域特性に基づき、関係機関と協働し、地域ケアシステムの改善・強化について検討できる。	・各種サービスの円滑な連携のために必要な調整ができる。 ・地域の健康課題や特性に応じたケアシステムについて検討し提案することができる。	・保健福祉政策に基づき、地域特性に応じたケアシステムの構築に係る施策化ができる。

キャリアレベル					
各レベルにおいて求められる能力					
	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
3 事業化・活動化のための活動化の	保健師の活動領域	求められる能力			
	3-1. 事業化・施設化	<ul style="list-style-type: none"> 所属自治体の健康課題を把握し、事業を企画立案し、予算を確保できる能力 地域の健康課題を解決するため、自組織のビジョンを踏まえた保健医療福祉施策を提案する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 担当地域の健康課題を把握し、施策と事業との関連性について理解したうえで、事業計画立案に参画することができる。 担当事業の進捗管理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 係内の事業の成果や評価等をまとめ、組織内で共有することができる。 地域の健康課題を明らかにし、評価に基づく事業の見直しや新規事業計画を提案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉計画に基づいた事業計画を立案し、事業や予算の必要性について上司や予算担当者に説明できる。 地域の健康課題を解決するための自組織のビジョンを踏まえた施策を各種保健医療福祉計画策定時に提案できる。
4 健康危機管理に関する活動	4-1. 健康危機管理の体制整備	<ul style="list-style-type: none"> 平時において、地域の健康課題及び関連法規や自組織内の健康危機管理計画等に基づき、地域の健康危機*の低減策を講じる能力 *災害、医薬品、食中毒、感染症、飲料水その他何らかの原因により生じる地域住民の生命、健康の安全を脅かす事態 	<ul style="list-style-type: none"> 健康危機対応マニュアルに基づき、予防活動を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性を踏まえ健康危機の低減のための事業を提案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性に応じた健康危機の予防活動を評価し、見直しや新規事業を立案できる。 健康危機管理計画や体制の見直しを計画的に行うことができる。
	4-2. 健康危機発生時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 健康危機発生時に、組織内外の関係者と連携し、住民の健康被害を回避し、必要な対応を迅速に判断し実践する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 発生要因を分析し、二次的健康被害を予測し予防するための活動を主体的に実施できる。 現状を把握し、情報を整理し、上司に報告する事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を整理し組織内外の関係者へ共有できる。 変化する状況を分析し、二次的健康被害を予測し、予防活動計画を画、実施できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康被害を予測し、回避するための対応方法について、変化する状況を踏まえて、見直しができる。 組織内の関連部署と連携、調整できる。
5 管理的活動	5-1. PDCAサイクルに基づく事業・施設評価	<ul style="list-style-type: none"> 所属部署内外の関係者とともに、事業評価及び施設評価、保健活動の効果検証を行う能力 評価結果等の根拠に基づき事業及び施設策の必要な見直しを行う能力 	<ul style="list-style-type: none"> 所属係内で事業評価が適切に実施でき、その後輩保健師を指導できる。 事業計画の立案時に評価指標を適切に設定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 所属部署内外の関係者とともに事業評価を行い、事業の見直しや新規事業の計画を提案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価に基づき保健活動の効果を検証し、施策の見直しについて提案できる。 施設立案時に評価指標を適切に設定できる。
	5-2. 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> 組織内外の保健活動に係る情報を適切に保管、開示、保護する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 保健活動に係る情報の取扱が適切に行われているか、自主的に確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 所属係内の保健師が規則を遵守して保健活動に係る情報を管理するよう指導できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健活動の情報管理に係る規則の遵守状況を評価し、マニュアル等の見直しを提案できる。
6. 保健師の活動基盤	5-3. 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 組織の人材育成方針を理解し、保健師の人材育成計画を作成する能力 継続的に自己研鑽するとともに、後輩を指導・育成する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 自己のキャリア形成ビジョンを持ち、積極的に自己研鑽できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 後輩保健師の指導を通して人材育成上の課題を抽出し、見直し案を提示できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織の人材育成方針に沿った保健師の人材育成計画を作成できる。
	6. 保健師の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> 根拠に基づいた保健師の活動を実践する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けながら研究的手法を用いて事業の評価ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究的手法を用いた事業評価ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域診断などにおいて研究的手法を用いて分析し、根拠に基づき保健事業を計画できる。 根拠に基づき、質の高い保健事業を提案し、その効果を検証できる。
保健師の活動の理念である社会的公正性・公共性について理解し、活動を倫理的に判断できる					

自治体保健師の標準的なキャリアラダー（管理職保健師に向けた能力に係るキャリアラダー）

キャリアレベル					
		B-1 (係長級への準備段階)	B-2 (係長級)	B-3 (課長級)	B-4 (部局長級)
各レベルにおいて求められる能力					
管理的活動	保健師の活動領域	求められる能力			
	1. 政策策定と評価	<ul style="list-style-type: none"> 国の動向や自組織の方針を理解し、担当部署に係る活動方針のビジョンを示し、必要に応じた見直しを行う能力 自治体を代表して外部機関の上位者との調整や交渉を行う能力 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の健康課題等に基づく事業化、施策化及び事業評価に基づく見直しができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉に係る国の動向や組織の方針、施策の評価を踏まえ、組織の政策ビジョンに係る提言ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉政策に係る必要な計画や法制度整備について組織内で提言し、実現に向け組織の意志決定者及び関係機関にはたらきかけができる。
	2. 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 危機等の発生時に組織の管理者として迅速な判断を行い組織内外の調整を行う能力 危機を回避するための予防的措置が行われるよう管理する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 係員が危機管理マニュアルに沿って行動できるよう訓練等を企画できる。 有事に組織内の人員や業務の調整を行い、課長の補佐や部下への指示ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課員が危機管理マニュアルに沿って行動できるよう各係長級に対し、訓練等の実施を指導できる。 有事に、組織の対応方針に基づき、組織内の人的物的資源等の調整や管理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理に必要な計画・マニュアル・内規等の整備を組織に提言し、具現化することができる。 有事に、行政の保健医療福祉組織を代表して、関係機関の代表者と連携し、部局を統括して対応できる。
	3. 人事管理	<ul style="list-style-type: none"> 担当部署内の全職員の能力・特性を把握し、資質向上のしくみづくりと必要に応じた見直しを行う能力 組織目標・計画を踏まえて保健師採用計画・配置基準・人事異動を提言する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 組織の人材育成方針と保健師の人材育成方針を踏まえて、主体的に資質向上に取り組むことができる。 係内の業務内容と量を勘案し、人材配置について係長に提案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 係内職員の能力・特性を把握し、資質向上のための取組を企画、実施、評価できる。 係内の業務内容と量を勘案し、人材配置について課長に提案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門職の人材育成計画を策定するため関係者が協働し検討できる場を設置し運営できる。 関係課長と連携し、保健師の業務範囲等を踏まえ保健師必要数について人事部門を含め組織内で提案できる。

【資料2】

保健活動到達状況評価票

◆ご自身の保健活動の到達状況について年一回は確認してみましょう

保健活動の到達状況は、日本看護協会による保健活動到達状況のチェックリストver.1を使用します。
「A-3に求められる能力」とは、キャリアラダーに沿い、保健師として一人前相当の能力を示しています。

1 対人支援活動

1-1 個人および家族への支援

A-3に求められる能力

- ・複雑な事例のアセスメントを行い、支援を実践できる。
- ・支援に必要な資源を適切に導入及び調整できる。

【到達状況】

- 1)支援が必要な個人および家族を把握できる
- 2)個人および家族のアセスメントから、包括的な対象者の理解ができる
- 3)個人および家族の健康課題を地域の状況や社会的環境要因も含めて把握し、支援の方向性と支援計画を立案できる
- 4)アセスメントに基づいて個人及び家族の支援ができる
- 5)個人および家族への支援の評価ができる
- 6)支援困難な事例について上司に報告・相談することができる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
【保健活動の確認項目】						
1)-(1)支援が必要な個人および家族を把握できる						
①地区活動やデータ等から支援が必要となる個人および家族を特定できる						
2)-(1)個人および家族と信頼関係を築き、それぞれの「身体的・精神的・社会的側面を理解し 情報を得ることができる						
①身体的な視点で情報収集できる						
②精神的な視点で情報収集できる						
③社会的な視点で情報収集できる						
④個人の訴えや家族の訴えを聴くことができる						
⑤個人、家族の短期目標、長期目標を聴くことができる						
⑥個人、家族の持つ強みや力を把握できる						
⑦家族機能・家族の関係性を把握できる						
⑧支援者それぞれの役割、支援目標を把握できる						
⑨収集した情報について、上司や先輩に報告・相談できる						
2)-(2)収集できる情報をアセスメントし、健康課題を明らかにできる						
①医療ニーズを明らかにできる						
②生活ニーズを明らかにできる						
③本人、家族がどうなりたいか、希望を明らかにできる						
④潜在的な健康課題を明らかにできる						
⑤緊急度を明らかにできる						
⑥重症度を明らかにできる						
⑦優先度を明らかにできる						
⑧不足する情報を明らかにできる						
⑨①～⑧を通して対象者を包括的にアセスメントできる						
⑩対象者の包括的アセスメントと支援者それぞれの役割、支援目標の整合性を評価できる						

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
3)-(1)支援を計画することができる	/	/	/	/	/	/
①長期目標、短期目標を策定できる						
②目標達成に必要な支援を関係者と連携して計画できる						
③新規事例の計画を上司、先輩、同僚と相談し、必要に応じて助言を得ることができる						
④支援方法を吟味し、個人の支援に必要な資源を適切に導入できる						
4)-(1)支援を実践することができる	/	/	/	/	/	/
①個人、家族を尊重しながら個別の支援を実践できる						
②必要な社会資源の利用を促進し、調整できる						
③実践の進捗について、上司や先輩に報告・相談できる						
4)-(2)必要時、集団による支援を活用することができる	/	/	/	/	/	/
①集団での支援が有効かどうか判断できる						
②必要に応じて、個人と集団を繋げることができる						
5)-(1)記録することができる	/	/	/	/	/	/
①客観的情報と伝聞情報を分けて記録できる						
②アセスメントを記録できる						
③記録の中でアセスメントをふまえて次に何をすべきか記録できる						
5)-(2)支援の評価を行うことができる	/	/	/	/	/	/
①目標の達成度を定期的に評価・修正できる						
②支援者の支援目標や支援内容について、個別ケア会議等で評価・調整できる						
③個別の事例から地域の健康課題を見出すことができる						
④評価の内容について、上司や先輩に報告・相談できる						
⑤地域に必要な資源を推定できる						
6)-(1)上司や先輩に報告することができる	/	/	/	/	/	/
①一人での支援が困難な事例は上司や先輩に報告・相談できる						

1-2 集団への支援

A-3に求められる能力

- ・集団への支援を通して、地域の健康課題を明確化することができる

【到達状況】

- 1)共通の健康課題を抱えた人々を抽出し、支援が必要な集団として特定することができる
- 2)特定の健康課題に対応するス数段に対して、集団の支援が有効であるかアセスメントできる
- 3)特定の健康課題に対応する集団に必要な支援を企画、実施、評価できる
- 4)集団への支援を通して、個別支援が有効かを見極めて、個人および家族への支援を生かすことができる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
【保健活動の確認項目】						
1)-(1)「個人および家族への支援」 2-1「地区診断・地区活動」を通して共通の健康課題を抱えた人々を集団として把握することができる	/	/	/	/	/	/
①地区活動や健康相談等から共通課題を持つ人々を抽出できる						
②共通課題を持つ人々を支援が必要な集団として特定することができる						
2)-(1)支援の有効性をアセスメントすることができる	/	/	/	/	/	/
①集団が持つ特性を関係者に説明できる						
②集団のアプローチの必要性を関係者に説明できる						
③集団の特性を踏まえて、集団での支援が有効であるかアセスメントできる						
3)-(1)支援に関するPDCAサイクルを展開することができる	/	/	/	/	/	/
①必要な支援について、企画、実施、評価を実施できる						
4)-(1)個別と集団を連動させて、支援を実践することができる	/	/	/	/	/	/
①個別支援対象に共通する健康課題を抽出し、集団支援につなげることができる						
②集団支援を通して、個別のケースマネジメントを行うことができる						

2 地域支援活動

2-1 地域診断・地区活動

A-3に求められる能力

・地域診断や地区活動で明らかになった課題を事業計画立案に活用できる

【到達状況】

- 1)担当地区・担当業務の活動で得られた情報や関連する健康統計等を活用し、地域診断ができる
- 2)地域診断や地区活動をもとに、必要な事業計画の立案を行うことができる
- 3)地区活動計画に盛り込む要素を提案することができる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)1「対人支援活動」、2「地域支援活動」を通して、地区の特性を把握し、健康課題とその解決方を推定することができる	/	/	/	/	/	/
①地区内で既にある組織やその活動状況を把握できる						
②住民のあるべき姿と現実の差異を判断できる						
③地区の社会的・文化的・歴史的背景から地区の課題を推定できる						
④日常の保健活動から地区の課題を推定できる						
⑤日常の保健活動を統合して、地区診断を行うことができる						
⑥関連する他課の地区診断を把握した上で、係内で地区診断を行った。						
⑦地区診断あるいは地域診断の結果を同僚や住民・関係者と共有し、地域の健康課題とその解決方を協議できる						
2)-(1)地域診断を事業計画の立案に反映することができる	/	/	/	/	/	/
①地域診断の結果をもとに、挙げた課題を解決できるように事業計画を修正できる						
3)-(1)地区活動計画について提案する	/	/	/	/	/	/
①地区活動計画の内容を理解できる						
②地区活動計画に盛り込むべき要素を提案できる						

2-2 地域組織活動

A-3に求められる能力

・住民とともに活動しながら、住民ニーズに応じた組織が提案できる

【到達状況】

- 1)地域で活動している様々な組織に関わることができる
- 2)組織を構成する人の課題解決能力を引き出し、その人々が主体的に地域における健康度の向上に係る活動に参画できるよう支援を
- 3)健康課題に応じて地域に見合った組織化の必要性を提案することができる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)地域で活動している組織と協働することができる	/	/	/	/	/	
①組織の発展段階を判断できる						
②発展段階に応じた支援の方向性を関係者に説明することができる						
③組織の発展段階に応じて、支援できる						
④組織に関連する担当地区の事業計画への参画を促すことができる						
2)-(1)組織の発展や課題解決への取り組みを支援することができる	/	/	/	/	/	
①主体性を尊重して協働できる						
②支援の必要性を判断できる						
③課題解決能力を引き出すことができる						
④組織を構成する人がより健康を獲得できるような支援を実践できる						
3)-(1)組織化を提案することができる	/	/	/	/	/	
①健康課題に応じて、組織を構成する人とともに改めて必要なものの組織化を提案できる						
②発展段階に応じて、組織を構成する人とともに改めて必要なものの組織化を提案できる						
③発展段階に応じて、協働できる						

2-3 ケアシステムの構築

A-3に求められる能力

・地域の健康課題や地域特性に基づき、関係機関と協働し、地域ケアシステムの改善・強化について検討できる

【到達状況】

- 1)担当業務を通して、既存の地域ケアシステムの課題に気づくことができる
- 2)地域の健康課題や特を踏まえて、地域ケアシステムの改善を検討できる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)1-1「個人および家族への支援」～2-2「地域組織活動」を通して、地域ケアシステムをイメージすることができる	/	/	/	/	/	
①地域診断の結果を踏まえた上で、担当地区において、今求められているケアシステムの姿をイメージできる						
②想定できるケアシステムについて協議すべき関係者を検討できる						
③地域ケアシステムの課題についてシステムの課題について関係者と意見交換ができる						
2)-(1)1-1「個人および家族への支援」～2-2「地域組織活動」を踏まえて、地域ケアシステムの改善を検討することができる	/	/	/	/	/	
①想定できるケアシステムに向けて、関係機関と協働して、担当地区のケアシステム構築を検討する場を設定できる						
②担当業務の地域ケアシステムの改善や開発の必要性を検討できる						
③健康課題と特性を踏まえた地域ケアシステムを提案できる						

3 事業化・施策化のための活動

3-1 事業化・施策化

A-3に求められる能力

- ・係内の事業の成果や評価等をまとめ、組織内で共有することができる
- ・地域の健康課題を明らかにし、評価に基づく事業の見直しや新規事業計画を提案できる

【到達状況】

1)対人支援活動～地域支援活動までの一連の保健活動を、事業化に反映できる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)1-1「対人支援活動」、2「地域支援活動」を通して、一連の流れを事業化に反映することができる	/	/	/	/	/	/
①既存の事業・活動を評価できる						
②評価の結果見えてきた課題を整理できる						
③事業・活動における目的・目標を確認し、課題解決に向けた見直しや新規事業を提案できる						
④多職種と協働し、事業や活動の合意形成をすることができる						
⑤担当事業に関する企画や予算を作成できる						

4 健康危機管理に関する活動

4-1 健康危機管理の体制整備

A-3に求められる能力

- ・地域特性を踏まえ健康危機の低減のための事業を提案できる

【到達状況】

1)健康危機管理マニュアルに基づいて、健康危機管理の体制整備を理解できる

2)平常時からの準備の必要性を理解し、住民と協働して、健康危機低減のための事業を実施できる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)マニュアルに基づき、体制整備を理解することができる	/	/	/	/	/	/
①マニュアルを理解し、説明できる						
②組織内外における各部署の役割を説明できる						
2)-(1)健康危機低減のための活動を行うことができる	/	/	/	/	/	/
①日常の地区活動より、地区の健康危機のリスクを把握し、発信できる						
②関係者と対策を検討できる						
③起こりうる健康危機発生時の担当地域やケースに関するリスクを想定できる						
④担当地域の健康危機管理体制整備の不備と改善の方向性について提案ができる						
⑤住民とともに、健康危機に備えた活動を実施できる						

4-2 健康危機発生時の対応

A-3に求められる能力

- ・必要な情報を整理し組織内外の関係者へ共有できる
- ・変化する状況を分析し、二次的健康被害を予測し、予防活動を計画、実施できる。

【到達状況】

- 1)状況把握をできる上で、必要な予防活動を実施できる
- 2)マニュアルに沿って行動し、関係者と情報共有を図ることができる
- 3)自身の身の安全を守ることができる
- 4)自身の立場で主体的に働くことと、指示を受けるべきことの判断ができる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
【自然災害】 1)-(1)状況判断と予防活動を行うことができる	/	/	/	/	/	/
①変化する状況を把握し、二次的な被害を予測できる						
②関係者に情報を報告・共有できる						
③住民の健康支援のための予防活動を計画、実施できる						
【感染症】 2)-(1)関係者と情報共有を行い、マニュアルに沿って行動することができる	/	/	/	/	/	/
①指令系統やマニュアルに沿って行動できる						
②組織内外の必要な情報を整理できる						
③関係者と情報の共有について提案できる						
【共通】 3)-(1)自身の身の安全を確保することができる	/	/	/	/	/	/
①経時的な記録の必要性を理解できる						
②健康危機発生に関する記録を残すことができる						
③自身の安全を守ることができる						
④自身の状況を上司や同僚に随時報告できる						
4)-(1)とるべき行動を判断することができる	/	/	/	/	/	/
①主体的にやるべき行動を理解できる						
②指示を受けるべきことを理解できる						

5 管理的活動

5-1 PDCAサイクルに基づく事業・施策評価

A-3に求められる能力

- ・所属係内で事業評価が適切に実施できるよう後輩を指導できる
- ・事業計画の立案時に評価指標を適切に設定できる

【到達状況】

1)PDCAに基づいて施策の評価を行うことができる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)施策について、PDCAサイクルに基づく評価を行うことができる						
①所掌する事業・活動に関し、関係者を交えて、評価を行うことができる						
②評価を踏まえて、改善を提案できる						

5-2 情報管理

A-3に求められる能力

- ・所属係内の保健師が規則を遵守して保健活動に係る情報を扱うことができる
- ・収集できる情報を適切に管理できる

【到達状況】

- 1)法令や規則を遵守して、保健活動に係る情報を扱うことができる
- 2)担当業務に関して、他部署や関係機関、住民へ情報発信ができる
- 3)収集できる情報を適切に管理できる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)法令や規則を遵守して、保健活動にかかる情報を扱うことができる						
2)-(1)担当業務に関して、他部署や関係機関、住民へ情報の発信をすることができる						
3)-(1)収集できる情報を適切に保管することができる						

5-3 人材育成

A-3に求められる能力

・後輩保健師の指導を通して人材育成上の課題を抽出し、見直し案を提示できる

【到達状況】

- 1)自己能力の到達度を確認できる
- 2)後輩保健師の指導を実践し、必要時見直し案を提案できる
- 3)職場内等での学習会等を行うことができる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)自己の能力を確認することができる	/	/	/	/	/	
①自分の能力の到達度を確認できる						
②自らの学習課題を明確化できる						
2)-(1)後輩保健師の到達度を確認し、指導や助言を行うことができる	/	/	/	/	/	
①後輩保健師の到達度を確認し、指導や助言を行うことができる						
②後輩保健師の自律・自主性を尊重できる						
2)-(2)後輩への指導内容を検討することができる	/	/	/	/	/	
①指導内容の改善点について検討できる						
②人材育成上の見直し等を提案できる						
3)-(1)学習会等を行うことができる	/	/	/	/	/	
①職場内で、学びあう機会を設定できる						
②職場外で、保健医療関係者とともに、学びあう機会を設定できる						

6 保健師の活動

A-3に求められる能力

- ・研究的手法等を用いた事業評価ができる
- ・保健師の活動の理念である社会的公正性・公共性について理解し、活動を倫理的に判断できる

【到達状況】

- 1)根拠に基づいた安全で安心な保健活動を展開できる
- 2)人の生命および尊厳遵守できる保健活動ができる
- 3)保健師として成長し続けられる
- 4)業務・活動への建設的疑問や研究的視点をもった活動評価を行うことができる

【実施月日】	/	/	/	/	/	備考
【保健活動の確認項目】	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	0.指導の下でできる 1.自立してできる 2.指導できる	
1)-(1)根拠に基づいた、安全で安心な保健活動を展開することができる	/	/	/	/	/	
2)-(1)社会的公正性・公共性を念頭に、人の生命及び尊厳を尊重することができる	/	/	/	/	/	
①社会的公正性・公共性を理解できる						
②人の生命および尊厳を尊重できる活動を実践できる						
3)-(1)成長するための活動を実践することができる	/	/	/	/	/	
4)-(1)研究的視点で活動評価を行うことができる	/	/	/	/	/	
①業務・活動へ建設的疑問を持つことができる						
②業務・活動について、研究的視点で活動評価を行うことができる						

【資料3】

新規採用保健師1年目の人材育成の流れ

時 期	目 標	具体的な事項
1～3か月	<p>【Off-JTは各種研修を受け、OJTと自己啓発にて具体的な業務とそれに伴う知識を身に付ける】</p> <p>①職員研修で、自治体職員としての知識を習得する ②保健所および保健センターの機能を理解し、職員としての位置付けを理解する ③保健師活動の概要を知る ④担当地区の引継ぎを受け、地域の概要・特性を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所・保健センター業務全般、職員紹介 ・服装規程・施設管理 ・文書事務・予算について ・担当課業務について ・関係機関職員へのあいさつ ・管内(市町村内)概況 ・地区活動 ・保健師関係事務 ・担当地区の引継ぎ ・OJT担当者と地域を回り、地区の状況を理解する ・電話の対応・電話相談 ・家庭訪問(見学・同行) ・個別援助の方法(計画・実施・記録及び評価・方針の策定) ・各事業の目的・概要
4～6か月	<p>【個人・家族・集団支援能力を中心に身に付ける。また、所属の事業の説明を一通り受け担当業務についてはチームの一員として役割がとれる】</p> <p>①担当の業務及び個別支援を指導受けながら実施できる ②自治体の健康施策を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問・面接(見学・同行・単独) ・地域の関係職員との連携 ・保健福祉関連の各計画の理解
7～9か月	<p>【一般的な個別援助、担当業務については一人できるように、個人・家族・集団支援能力、保健事業運営能力を身に付ける】</p> <p>①優先順位を考えながら自立して業務を行うことができる ②助言を受けながらすべての個別ケアが実施できると同時に、必要時他のスタッフや関係機関の支援を求めることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事業のスタッフとして役割に付く ・健康教育の計画・実施・評価 ・家庭訪問・面接(同行・単独)
10～12か月	<p>【一般的な個別援助、担当業務については一人できるように、個人・家族・集団支援能力、保健事業運営能力を身に付ける】</p> <p>①単独で一通りの業務を行うことができる ②自分の仕事を評価し、次の計画が立てられる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当業務の評価・次年度計画 ・担当地区の特性・問題を整理

【資料4】

家庭訪問についての行動目標と到達時期の目安（新規採用保健師）

流れ	行動目標	到達時期の目安 ※				チェックポイント	
		3か月	6か月	12か月	1～3年		
事前準備	1 事前情報から支援の方向性を探る	・事前情報を得る。 必要な情報を確認し、予測できる事柄や不足している情報の整理ができる。	○				・訪問計画を立てる上で不足している情報は何か。
		・適切な支援方法の選択ができる。	○	○			・時期、訪問が適切でない状況ではないか。
		・上司に必要な相談・報告ができる。	○				
		・担当地区の対象者を把握している。	○				
		・訪問の優先順位を考えられる。		○			
		・訪問の目的が明確にできる。	○	○			・何のための訪問か。
	2 事前の連絡	・事前の連絡が適切にできる。 訪問の目的を伝えることができる。	○	○			
	3 事前準備	・訪問計画を立てることができる。		○	○		・計画に沿ってシミュレーションをしたか。
		・必要な物品の準備ができる。		○			・目的に合わせて物品を準備したか。(パンフレット等)
		・必要な技術を身につける。 資料、文献から必要な技術を確認する。		○			・想定される質問事項については対応できるようにしておいたか。
		・活用できる社会資源について把握できる。		○			・訪問計画に基づき把握できたか。
		・必要な場合は関係機関との連絡調整ができる。	○	○			・事例によっては関係機関への事前調整が必要。
・訪問の経路の確認、交通手段の確保ができる。		○	○				
訪問の実施	1 公務員としてのマナー	・訪問場面でのマナー、適切なコミュニケーションがとれる。 訪問目的を伝えることができる。	○	○			・訪問目的が伝えられたか。 ・対象者にあった服装、髪型か。
	2 健康観察状況の把握	・対象者の健康観察ができる。	○	○			・生活歴、病歴、家族歴、経過の把握はできたか。
		・対象者の話を聞き健康課題を把握できる。		○	○	○	・対象者が現在の状況についてどう感じているのか把握したか。 ・対象者のもつコミュニケーション力や、自己肯定感などを把握したか。
		・対象者の健康課題をくらしと関連して把握できる。		○	○		・住居(広さ、整頓、清潔、採光、換気、近隣との境界状態)、経済、生活リズム、仕事、家族の状態、社会との関係、地域の風土(歴史、産業、風習、騒音、空気など)との関係
		・今後起こりうる健康課題や潜在している健康課題を予測できる。				○	

流れ	行動目標	到達時期の目安 ※				チェックポイント
		3か月	6か月	12か月	1～3年	
訪問の実施	3 支援の実施	・見立て(アセスメント)ができる。		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・得られた情報をもとに医学的・科学的根拠に基づいて事例性や疾病性も視点に入れて判断しているか。 ・健康課題について優先順位をつけられたか。 ・支援目標・目的が設定できたか、対象者と共有できたか。
	・適切な支援の実施ができる。		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に適した支援方法か。 ・対象者が意思決定できるよう支援しているか。 ・対象者の持つ力を引き出すよう支援しているか。 	
	・家族も含めた支援ができる。			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の家族に健康課題がある場合はそのことについて支援ができたか。 ・対象者の健康課題との関連も考えられる。
	・判断に迷う時、わからないことについて確認した後回答する旨を伝えられる。			○		
	・今後の方針を伝えられる。			○		・対象者の考えを確認したか。
	・活用できる社会資源の情報提供ができる。			○		・対象者にとって必要な社会資源・サービスの提供、紹介が適切にできたか。
訪問後の対応	・適切な記録の作成ができる。		○			・情報・判断・対応・今後の方針が適切に記載されているか。
	・上司への報告・連絡・相談ができる。	○				・緊急度高い時は訪問後速やかに報告し助言指導を受けること。
	・今後の支援計画を立てることができる。		○			・今後起こりうる状態も予測して支援計画を立てる。
	・必要な関係機関との連携をとることができる。		○			・支援計画に基づいて必要な機関との連携ができるか。
	・記録の保管ができる。		○			・守秘義務、所属の方針に沿った保管ができるか。
	・必要時には上司と相談しながら事例検討会を企画することができる。			○	○	・目的に応じた参加者、時間、場所の設定ができたか。

※ 到達時期の目安の欄の○印は目安を示しており、実際に到達できた場合にチェックを入れる。

【様式1】 私の仕事シート

氏名

①個人の属性		②所属名	③ (○印)	④仕事内容(事務分掌)	⑤やり遂げた仕事とその背景(要因)等	⑥災害対応		⑦受講した研修	⑧研究	⑨その他										
						災害派遣先	所属職場の災害対応の有無													
年度	年齢(4/1現在)	現在所属	経験年数	職名	[例] H31	33	2	10	主任保健師	健康課	地区分担業務分担企画調整	がん検診業務に関すること	がん受診率及び精検受診率向上のため個別の受診勧奨に取り組めたこと(要因):職場内で事業の共通理解を図り、担当以外の職員の支援体制を構築できたこと	〇〇県	有	北海道・東北ブロック研修会	発表者 アイメンバー []	発表者 アイメンバー []	県看護協会役員	

⑧研究
発表者
アイメンバー
()研究テーマ

⑨その他
育休
職能団体の役員等

【様式2】 振り返りシート

氏名

No	異動毎の振り返り	あなたのこれまでを振り返り、保健師として自分自身を成長させたと思う仕事	要因(例:ケースとの出会い・職場の支援体制・市町村との連携・研修受講 等)
1	平成()年度 ～ 平成()年度		
2	平成()年度 ～ 平成()年度		
3	平成()年度 ～ 平成()年度		
4	平成()年度 ～ 平成()年度		
5	平成()年度 ～ 平成()年度		

【様式3】目標設定シート（わたしのビジョン）

氏名

記載年月日（平成 年 月 日）

現 状	
具体的な目標	【短期目標（1年を目安）】
具体的な目標	【長期目標（3年を目安）】
目指したい保健師像 （目的）	

統括保健師（面接者） のコメント	
---------------------	--

【記載上のルール】

* 目指したい保健師像（目的）

“どんな保健師を目指したいのか” “保健師としての夢” など、自由に書いてください。
書いた内容は、時々、見直して追加、変更してください。

* 具体的な目標

長期目標は、実現するための最終目標を書いてください。

長期目標は、短期目標の積み上げにより目標達成します。

短期目標の設定は、長期目標達成のために必要な目標を書いてください。